

残雪の多い年だからこそ

## 月山 月山～北月山荘 山スキー

GW前半はどこに行こう？ 4月の週末は天候不順の日が多かったせいで泊まりのスキーに行っていない。山形出身で山形をこよなく愛する（そのため誘いに乗ってきやすい）佐藤（耕）さんに「月山周辺で遊びませんか？」と言ったら、「雪の多い年はGW前半でも北月山荘までのルートを楽しむことができるよ」と言うので、しめしめこれはチャンスとほくそ笑む。当初は山中一泊の予定だったが、二日目の予報が良くないので、一日で北月山荘まで抜けることにした。

【日程】

2017年4月28日（金）

【メンバー】

坂村（L）、佐藤（耕）、本多

【地形図】月山・立谷沢

【記】坂村

4月28日（金）：晴れ

北月山荘は標高400mほどの位置にあるので、雪が最後まで繋がっているかどうか心配しながらこの日を迎えた。夜中に山形までドライブをして睡眠時間が少なかったが、今日一日で北月山荘まで抜けることができるよう、リフトが動く時間に合わせて行動する。

リフト乗り場にはそれなりに人がいたのに山頂に向かう人が少ないのは、晴天のなかで月山にだけ厚い雲がかかっていたせいだろうか。この時期において、真っ新たなカールを最初に横切るのが自分たちになるとは思っていなかった。



最初はガスで視界が悪かった

雲の中に入ると月山は急激に様相を変えた。カチカチの氷の斜面とハイマツに群がる海老の尻尾は、ここが侮ってはいけない雪の山だと語っている。途中で片方のクトーを落としてしまった佐藤（耕）さんは少々登りにくそうではあったが、彼にとっては大きな問題ではなかったようだ。

山頂付近はもはや視界が悪く、時折「ゴォ」と強い風が吹く。一番手で登り終えていた本多君が頂上小屋の陰に避難していたので残り二人もそこに合流

した。雲は必ず取れる。そう信じて三人でツェルトの中で一時間ほどガス待ちをする。すると、チャンス到来！ 気づくと雲は散り散りになり、風も弱まっていた。ツェルトから出ると、予定のルートも見えている。一気に気持ちが高揚し、滑走準備にとりかかった。

まずは沸生池小屋に向かって緩い尾根を滑ってゆく。もさっとした新雪が乗っていたせいで、エッジを効かせてビュンビュン滑るという具合にはいかなかったが、だだっ広い斜面を滑るのはやはり気分がいい。途中のポコを巻きながらあっという間に沸生池小屋を通過した。そこから阿弥陀ヶ原までブッシュが出ているところもあったが、スキーを脱ぐこともなく通過。平坦な阿弥陀ヶ原をストックを漕いで横切れれば月山高原ラインの終点にあるレストハウスの屋根が雪の中から顔を覗かせていた。ここから標高1206地点までは時折道路と交わりながら雪を拾って滑る。道路上は雪の切れているところもあったが、道路脇の積雪は十分だった。

標高1206地点で休憩を取りつつ目指す方角を確かめる。地図で見て感じていたよりもこの先の尾根が細いように感じるし雪の状態も気になってきたので、少し慎重に滑ることにする。すると案の定、雪がズタズタに切れている箇所があった。見るとその横に雪が繋がっているところがあったので滑って行ってみたら、自分の足元に新雪で隠れているクラックがあることに気づき、滑りづらいが安全な藪に入って尾根ルート避けることにした。すると藪は最初だけで、尾根下はなかなかよい樹林帯になっていた。当初の予定ではこの少し先に幕を張るつもりだったので、もし予定通りになっていたら清々しい森の中での楽しいキャンプになっていただろう。

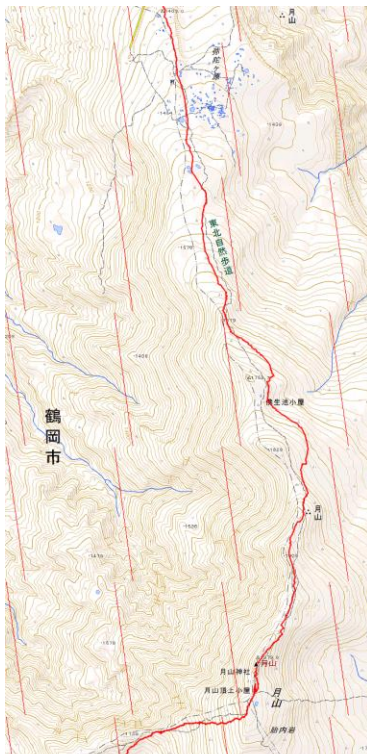
983Pのポコを右から回り込むと北月山キャンプ場まではもうすぐだ。心配していた雪は、結局北月山キャンプ場までなんとか繋がっていた。そして、木の間隔が適度に開けた明るい樹林帯と、そこに差し込む柔らかい日差しがこの素晴らしい縦走を締めくくった。

【行程】 月山リフト終点 (8:45)～月山 (11:00/12:00)～1206P (13:30)～北月山キャンプ場 (15:30)



広大な斜面はとにかく楽しい

【月山～阿弥陀ヶ原】



【阿弥陀ヶ原～北月山壮】

